

講演概要

JIIA 公開シンポジウム
「20 世紀の東アジア史から現代世界を考える」
 2019 年 12 月 10 日（火）



今日のアジア、なかでも東アジアは、相対的に平和的な国際関係と経済的繁栄とを享受しています。この地域にみられる 2 つの主要な政治的特徴として、政治システムが極めて多様であることと、破綻国家が存在しないことが挙げられます。20 世紀のアジアの歴史の検討を通じてこうした特徴を分析する場合、国家建設と国際関係という 2 つの概念が重要になります。アジアに破綻国家が存在しないことは、東アジアにおける国家建設プロセスが、植民地時代を経験した国々を含め、相対的にみて順調に進んできたことを意味しています。

本シンポジウムでは、激動する国際関係の流れの中でおきている国家・社会・市場の相互作用を検討し、東アジア地域諸国の歴史的発展について議論しました。

基調講演：The Political Economy of Past and Future Growth in Northeast and Southeast Asia

Dwight Perkins ハーバード大学名誉教授による基調講演では、戦後アジア各国の経済発展の成否を左右した条件についての分析と、それを踏まえた中国の経済発展の要因の検討、今日の米中貿易摩擦の背景の検討について議論されました。共産党の中央集権を強化する近年の中国政府の方針により市場経済化に逆行する動きが見られる。それが経済停滞をもたらす要因にもなりかねず、中国経済の後退はその兆候を既に表している恐れがある、また、米中間の経済的相互依存は米中冷戦をもたらしたと同時に、両

国が協調関係を維持する理由にもなっているという指摘がなされました。

パネルディスカッション

パネルディスカッションでは、各討論者がそれぞれ日本・韓国・中国・ミャンマーの20世紀における経験を事例として、現代世界をとらえる議論を行いました。とりわけ、各国の発展を可能にした要因と課題について、専門的知見からの鋭い分析が提示され、現在のみならず将来の発展に向けたアプローチも検討されました。フロアからは、経済分野以外でも日本が果たせる役割は大きいことなどが指摘され、討論者との間で活発な議論がくり広げられました。

プログラム

JIIA 公開シンポジウム

「20世紀の東アジア史から現代世界を考える」

日本国際問題研究所
2019年12月10日（火）

- 13 : 15—13 : 20** 主催者挨拶
佐々江賢一郎（日本国際問題研究所理事長）
- 13 : 20—13 : 35** 趣旨説明
田中明彦（政策研究大学院大学学長）
- 13 : 35—14 : 05** 基調講演
Dwight Perkins（ハーバード大学名誉教授）
- 14 : 05—14 : 15** 休憩
- 14 : 15—15 : 25** パネルディスカッション
司会：田中明彦（政策研究大学院大学学長）
討論者：川島真（東京大学教授）、
北岡伸一（JICA 理事長）
木宮正史（東京大学教授）

根本敬（上智大学教授）